

国連大学国際会議 2008

残留性有機汚染物質に関する ストックホルム条約実施のための 学術機関と民間企業の役割

アジア沿岸水域における環境モニタリングと管理プロジェクト
第4期（2005-2008）最終報告

11月14日(金) 午前9:30より
国連大学本部ビル

水には様々な物質が溶けています。その物質には工業・農業・生活から排出される汚染物質も含まれます。特に、残留性有機汚染物質(POPs)は食物連鎖を通じて生物の体内に蓄積しやすく、健康や環境に悪影響を及ぼします。国連大学は島津製作所と協力しアジア地域の開発途上国において、POPsの監視及び管理を効果的に促進するために研究活動強化や高等教育の支援に貢献しています。

本会議では、国際的に活躍している専門家や民間企業の研究者をお招きし、開発途上国において、ストックホルム条約の規定を実施するための研究活動や技術力向上について講演・報告を行います。また、利用可能な最良の技術(BAT: Best Available Techniques)、及び環境のための最善の慣行(BEP: Best Environmental Practices)の促進に関する講演も行います。オープニング・セッションは、プロジェクトの概要や経済産業省の実施計画など日本政府の役割について、続く講演の部1・2ではアジアにおける学術機関と民間企業の果たす役割について基調講演を行います。

講演終了後は、今期のプロジェクト完了を祝いセレモニーを行います。

参加申込、詳細につきましては下記のウェブページをご覧ください。
<http://www.unu.edu/esd/manage/event/conference2008.html>



国際連合大学



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

株式会社 島津製作所

 SHIMADZU

国連大学国際会議 2008

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約実施のための 学術機関と民間企業の役割

11月14日(金)

[日英同時通訳付 - 参加費無料]

プログラム

09:00-09:30 受付

開会の部

司会進行: 飯野福哉 国連大学学術研究官

09:30-09:35 開会の辞 国連大学 副学長 ゴヴィンダン・パライル

09:35-09:50 ストックホルム条約 ファトゥーマタ ケイタ オアンネ ストックホルム条約事務局
科学技術チームリーダー

09:50-10:10 国連大学プロジェクトのご紹介と本会議の位置づけ 国連大学プログラムアドバイザー
森田昌敏

10:10-10:40 ストックホルム条約に関する政府の役割 経済産業省 製造産業局化学物質管理課
田村修司

10:40-11:20 化学物質管理に関する学術研究機関の役割: ストックホルム条約と化学物質汚染国際
パネル(IPCP) スイス連邦工科大学 マーティン・シェリンガー

11:20-11:35 質疑応答

11:35-13:00 昼食休憩

講演の部 1: アジアの学術機関の役割

司会: マーティン・シェリンガー スイス連邦工科大学

13:00-13:40 ストックホルム条約地域センターの役割と将来展望 清華大学 ガン・ユー

13:40-14:10 プロジェクト報告: フィリピン フィリピン大学 エバンジェリン・サンチアゴ

14:10-14:40 プロジェクト報告: ベトナム ベトナム国立大学 ファン・フン・ベト

14:40-15:00 休憩 (お飲み物の用意がございます)

講演の部 2: 民間企業の役割

司会: 森田昌敏 国連大学プログラムアドバイザー

15:00-15:40 日本環境安全事業における PCB 廃棄物処理 日本環境安全事業(株) 木村正信

15:40-16:20 BAT (Best Available Technology) と BEP (Best Environmental Practice)
に関する東アジア、東南アジアフォーラム 国際連合工業開発機関 モハメド・アイサ

島津製作所との3年間のプロジェクト完了と感謝状贈呈

16:20-17:00 国連大学 学長 コンラッド・オスターヴァルダー
株式会社島津製作所 社長 服部重彦

閉会の辞

17:00-17:05 国連大学 副学長 ゴヴィンダン・パライル

ポスターセッション

17:05-